

基盤強化 活動報告の紹介

JICS NGO支援事業は団体の組織基盤の安定・強化を目的に基盤強化のための助成も行っています。

2021年と2022年度は以下の団体に対して、基盤強化のための費用を支援しました。
クラウドファンディング専門家や若手人材育成のための人件費、活動拠点となる事務所家賃や団体紹介広報資料の製作費などへの支援も可能です。

2022年度

認定特定非営利活動法人 UAPACAA国際保全パートナーズ

実施プロジェクト名

インターンシップを活用した自然保護分野における国際協力人材育成と組織基盤強化

プロジェクト概要

途上国における生物多様性保全とコミュニティの持続可能な開発を推進する、自然科学的バックグラウンドを持った実務家を育て、同時にプロジェクト資金調達にも貢献することで組織が安定する。

プロジェクト内容と成果

当法人理事の協力を得て、自然科学的バックグラウンドを持った若手人材（インターン生）を、通年で確保しました。また、後期には正会員の中から志願があり、当法人のSNS（IG、FB及びTwitter）発信を担当する若手プロボノの、広報活動への参画を得ることができました。この布陣で、岡安が2022年9月に2年半ぶりに現地視察を行いました、カメルーン・ロベケ国立公園の現状改善資金を募る、冬の緊急クラウドファンディングを実施。また当法人独自の呼び掛けも行なったところ、目標額を上回る資金調達は達成することができました。

SDGsに向けての今後の活動

当法人の活動の目的は、定款にも定めるように「アフリカやアジアの生物多様性保全上の重要地に対して、自然保護活動を推進するための技術的・資金的支援に関する事業を行い、地球環境の保全に寄与すること」です。現在、推進しているカメルーン・コンゴ民主共和国・ブータンの現場の自然保護活動を継続し、野生動物保護と地域住民の持続可能な開発の両立を目指すことによって、貧困削減や陸域生態系の保護といったSDGs達成に直接、貢献していきます。



2022年度

特定非営利活動法人 Piece of Syria

実施プロジェクト名

シリアの平和を担う教育支援のためのファンドレイジング強化プロジェクト

プロジェクト概要

持続的な支援が実施できる安定した財源確保のため、ファンドレイジングスタッフの能力強化と、潜在・顕在支援者とのコミュニケーションを改善するための戦略策定を行う。

プロジェクト内容と成果

1年間、ファンドレイジング専門家に伴走していただき、スタッフの能力を最大限に活かしてファンドレイジングを強化する戦略を策定しました。定例のミーティングに参加していただき、アドバイスや相談に乗っていただいた結果、これまで理事長に集中していたファンドレイジング業務がスタッフに移管され、常にPDCAサイクルが行われているような状況を作り出すことが出来ました。また、継続寄付会員募集のためのWebページも委託制作を行い、制作会社と何度もミーティングを重ねながら、団体の思いが形となった特設ページが完成しました。

SDGsに向けての今後の活動

スタッフのファンドレイジング能力が向上した組織体制をもって、Webページを効果的に活用し、安定した寄付の獲得に取り組んでいます。2024年4月末から6月末にかけて、継続寄付会員募集強化キャンペーンを実施しています。安定した寄付財源の獲得によって、当会が実施する教育事業の受益者数を約400名から、2025年までに2000名に増やすことを目指しています。戦争によって教育を受けられない世代を生まないことで、シリアの復興を担う人材を育成します。また、平和について考えるきっかけを提供する啓発活動にも注力していきます。



2022年度

特定非営利活動法人 World Theater Project

実施プロジェクト名

途上国の子ども達への映画配達事業拡大に向けた国内組織強化事業

プロジェクト概要

映画配達事業の継続および拡大に向けた国内の体制強化に向け、事務局メンバーの有給配置、助成金や個人・法人寄付の獲得活動、会計の効率化や会員へのケア対応などの事務局活動を充実させる。

プロジェクト内容と成果

助成を受け有給スタッフ2名を配置できたことで事務局の基盤が整い、カンボジアでの移動映画館の活動により力を入れられるように。カンボジアではシェムリアップ州とバタンバン州で月16回程度(鑑賞者1回平均50名)の上映が可能に。普段映画を観る機会のない農村部の子ども達に映画が届いています。ディズニー作品を上映する許諾を得て『バズ・ライトイヤー』『私ときどきレッサーパンダ』『ストレンジ・ワールドもうひとつの世界』を上映。また同じく許諾を得て上映したチャップリンの『街の灯』の星空上映会では、大人たちも大笑い。また、映画を観た効果を測定することもできました。

SDGsに向けての今後の活動

新型コロナウイルスの影響で一時停止していたカンボジアの移動映画館が軌道に乗ってきたので、他の途上国での上映にも再び踏み出し始めました。各国の現地と縁のある個人団体の方々と連携し、弊団体が機材や上映作品を貸与し、ワークショップをともに考えるなどの仕組みを作っている最中です。現在はザンビアの孤児院での上映が決まっております。各国のパートナーの皆さまと共に映画を知らない子ども達に映画を届けることで、SDGs達成に向けての一助になると信じ、活動を続けてまいります。



2021年度

特定非営利活動法人 関西NGO協議会

実施プロジェクト名

ネットワークNGOの若手職員育成を通じた、次世代と地域を巻き込む連携強化事業

プロジェクト概要

職員の育成を通じて他セクターやユース世代との連携を強化し、普及啓発事業の運営安定化と継続開催を目指す。前年度の経験を活かし蓄積することで、組織基盤強化に繋げる。

プロジェクト内容と成果

①当会実施の普及啓発事業「ワン・ワールド・フェスティバルfor Youth」の継続性担保、②育成対象職員の事業管理・推進能力向上、③組織としての業務効率向上
上記3点の課題に取り組みました。当該職員としては、准認定ファンドレイザー資格取得、当該事業の資金集めへの従事、他地域のネットワークNGOへの訪問と連携強化を主に実施しました。人脈拡大や経験の蓄積が能力向上に繋がり、組織全体の効率性向上にも繋がっています。組織としては、同職員が中心となりSales Forceを導入し、管理業務等の効率が上がっています。

SDGsに向けての今後の活動

SDGs達成の可否やその後の社会・世界の行方に大きく関わるユース世代の育成という観点からも、社会課題に関心のある高校生が一歩を踏み出す場として、今後もワン・ワールド・フェスティバルfor Youthを継続して開催していきます。
また、市民社会全体のプレゼンスや能力の向上のために、育成対象であった職員を含め、当会が地域のネットワークNGOとして、今後も市民社会におけるネットワークを、分野や地域を問わず拡大・強化していくことが、市民社会がSDGs達成のために大きな役割を果たすことに繋がると考えています。



2021年度

認定特定非営利法人 エクアドルの子どものための友人の会

実施プロジェクト名

エクアドル共和国での教育支援の活動を安定的に実施、継続できるような国内体制の強化

プロジェクト概要

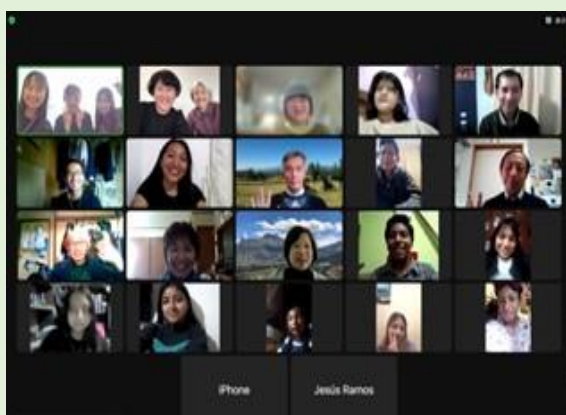
事業3年目となる本事業も、事務局活動を充実させ、業務交代可能な安定的な体制に変えていく。会員、寄付、助成金獲得に向け活動を強化し、継続的に活動場所を確保する。

プロジェクト内容と成果

サネは34年間、個人ボランティアに依拠して活動を続けてきましたが、特定の個人に集中した業務形態を脱して、みんなで関わることでできる交代可能な組織づくりを目指した国内基盤強化を行ってきました。具体的には、1.必要な資金の確保、2.資金管理体制の確立、3.発信力の強化、4.事務所確保と事務局体制の確立に取り組み、2022年は、すべてにおいて成果を上げることができました。また、特に経理分野の資料を公的に認められるレベルまで整えることによって、認定NPOを取得することができました。

SDGsに向けての今後の活動

会全体としては、サネの目的であるエクアドル人の自立のために、奨学生事業と教育環境改善事業(植林、菜園、食の改善)において現地の人々の主体性を重視し持続可能な事業運営を行っていくことを第一の課題として取り組みます。また、国内においては、会の国際的な経験とつながりを活かしてSDGsを普及していくための活動として、特に子ども達を対象にした活動(はんのうSDGsクラブの結成)を地域の他団体と共に行っていきます。



2021年度

認定特定非営利活動法人 UAPACAA国際保全パートナーズ

実施プロジェクト名

インターンシップを活用した自然保護分野における国際協力人材育成と組織基盤強化

プロジェクト概要

途上国において生物多様性保全と持続可能な開発を推進する、自然科学的素養を持った実務家を育て、同時にプロジェクト広報と資金調達にも貢献することで組織が安定する。

プロジェクト内容と成果

クラウドファンディングによる資金調達と助成金獲得が、安定した財政基盤の両輪となるよう、本事業によるインターン確保によって、当法人の広報発信力と資金調達力の強化を目指しました。

- ・2年目は寄附目標額600万円に対して1200万円を調達できたので、インターンシップ必要経費が確保できた。特にカメルーン・ロベケ国立公園保全プロジェクトのインターン志望者が増えています。
- ・JFGE「ひろげる助成」にDRCのボノボ保護プロジェクトで採択され、「JICS NGO支援」3年目の助成と合わせ、DRCのフィールドでのインターンシップの展開も可能になりました。

SDGsに向けての今後の活動

1年目に続き、現場を知るアシスタントとSNS発信に長けたアシスタントがタグを組み、クラウドファン（直接寄附）の広報を盛り立てる流れができました。さらに若い獣医師や芸大生、ボノボ研究者などの多様な人材の参加も見込まれ、発信の多角化が期待されています。1年目のアシスタントとボノボも、スケールアップした現場活動への参画を促していきます。特にDRCのプロジェクトでは、ボノボ保護エコツアー復興に加えて、持続可能なコミュニティ開発のための付加価値の高い地場産業づくりを目指すので、彼らの専門性が活かせる場を提供することができます。

